

平成 22 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000054		
法人名	株式会社メイト		
事業所名	ホームとよまね2号館		
所在地	〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第2地割111番地3号		
自己評価作成日	平成 22年 8月 25日	評価結果市町村受理日	平成 23年 1月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393000054&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393000054&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年11月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日のラジオ体操とともに下肢筋力運動や口腔体操を取り入れ、歩くこと・食べることが自分できる筋力維持に努めています。また、豊間根地区という環境を生かして自治会の会員として地域に自然と溶け込むことができ、農産物を中心とした収穫ができることは自慢できる点です。なお、ホームにも畑を作り自分たちで育てた野菜を収穫し食べる環境がある点も恵まれています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平成22年4月の開所で間もないが、『安心と尊厳のある』自立生活を支援し、高齢者が「生きていること」を実感できる地域福祉の一翼を担うことを目指します』と独自の理念をつくりあげ、職員は実践に向けて取り組んでいる。自治会へ加入し、会員として農園作業や行事へ職員と利用者が一緒に参加する中で周辺住民からは「いつでもどうぞ」と野菜などの収穫物を頂いたり、近くの産直に毎週土日には利用者が新聞紙をたたんで作った包み紙を持参するなど、管理者・職員の積極的な地域交流の取り組みが住民の理解を得ており、今後、益々地域の一員として溶け込み存在感を高めつつある事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示するとともに、毎月職員会議で理念を復唱し、自立生活の支援についての意識付けを行っている	独自の理念『安心と尊厳のある』自立生活を支援し、高齢者が「生きていること」を実感できる地域福祉の一翼を担うことを目指します』を作り上げ、毎月開催する会議資料に掲載し職員一同が確認しながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	八千代自治会の会員として、農園作業やお茶飲み会へ参加するとともに、おでんせ市(産直)へ毎週出かけ交流を深めている 保育所園児との相互交流を行い顔と名前を覚えられる関係作りに努めている	自治会に加入しており、情報紙や伝言板が配布され、毎月実施される行事などへは積極的に利用者と一緒に参加している。また、土日に開催される「おでんせ市」(産直)には、利用者が「おでんせ市」で使用する包み紙を作って野菜を買ってくる等授産的な仕事の請け負いを兼ねた密度の濃い交流を図っている。	地域の一員として交流を深めることは、利用者の安心できる暮らしにつながることであり、今後とも工夫しながら積極的に取り組まれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会役員会へ認知症についての説明会に伺うとともに、ホームに来ていただき実際に接していただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動内容を報告するなかで意見をいただき、すぐできることはその場で実行しサービス向上に努めている	2ヶ月に1回開催し、知見者として他ホームの職員を委嘱しているのが特徴的である。自治会加入への提言を頂いたり利用者の誤嚥、転倒事故への対応について意見をいただき利用者のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターを主に連絡をとり、実情を伝え助言・指導をいただいている	推進会議や2ヶ月に1回発行している通信を持参し情報交換を行なっている。利用者に関する困難ケースについて連携を図りながら支援しているとともに、行政からの相談もあり、協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で『指定基準等において生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合』を除き禁止するケアに取り組んでいる	利用者を与える身体的、精神的苦痛に対する理解を研修で深め、言葉による拘束を含めて拘束しないケアに取り組んでおり、家族ともリスクについて話し合っている。玄関の鍵は日中はかけず、ネームプレートを下げて自由に散歩している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で「高齢者虐待防止法」に基づく虐待の定義を勉強し5つの区分に分けケアに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で両制度の勉強会を行うとともに、日常生活自立支援事業の利用を専門員と協議している。 成年後見制度は社会福祉士が後見業務を実践しながら活用を支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は契約書・重要事項説明書を用いて理解・納得していただこう説明している。 一番の不安である退所後についても一緒に次を探すことを説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域包括支援センター、第三者委員へ意見等を伝えられる仕組みを説明し理解を得る。 運営に反映されている機会は今のところありません。	毎月の利用料の支払い時や面会時などに機会をつくり話し合っている。家族からは、本人の出来ることをやれるように、体を動かす機会づくりなど個別支援に関する意見や要望が多く、支援に活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催の職員会議時、代表・管理者が出席し一人一言発言するようお願いしている。 日々の業務中も提案を積極的に取り入れ改善を繰り返す作業を行っている	毎月開催する会議で全職員が発言し話し合っており、最近では、利用者の入浴の順番とかシーツ交換の時期等が意見として出され、検討のうえ業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給与水準にできるなど職場条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月「職員研修」を開催し勉強をするとともに、外部研修にも出来る限り参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県沿岸北ブロックに所属し、情報交換を行いながら相互交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し見守ることに徹し、最初から行動を否定さず一度受入れる姿勢で関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを何回でも聞きとり、お話を聞く中で関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者状況を細やかに連絡報告する中で、サービスの必要性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般を利用者と共に行い、生活場面を一緒に過ごす関係をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りホームに来ていただき他の利用者との交流を深めていく中でご本人を支えていく関係を築いている。 行事や催し物と一緒に参加できるよう連絡を密にして関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人々の来所を歓迎するとともに自宅へ行くなど依然の環境に戻る場面を創設している。	家族の協力を得ながら実家や周辺の訪問、お墓参りをしたり、職場の仲間や老人クラブの会員が遊びに来たり、教え子のいる美容院に行ったりと、継続的な交流ができるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や行動パターンを観察の中から見出し、グルーピング作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の居場所が決まるまでは支援に取り組んでいる(その後の相談は特に行っていません)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話する中でご本人の思いや希望を聞き出しサービスにつながるよう努めている。困難な場合はご家族に相談しリスクも含めた危険性について話し合い検討している。	利用者も職員によって話し方が異なるので、日常の活動や個別に散歩へ出かけた時などの会話内容を日誌に記録し、情報を全員で共有しながら希望や意向の把握に努め、サービスにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用いながら少しずつ、ご本人やご家族、そして面会に来られる方から情報を収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	課題分析を行う中で職員より状態の観察状況を聞き取り把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からは面会時等に希望やご本人への思いを聞き取り計画の反映に努めている。	利用者個別の行動記録等を総合的に検討して介護計画を作成している。さらに、家族や困難ケースについて地域包括センター、病院など関係者からも情報を得て検討し作成している。また全職員が利用者個々人の健康状態、ADL、能力など記載した評価表を提出して、見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日誌をつけ、日々の記録を全職員が共有し計画の反映に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観察の中から一人一人のニーズ把握を行い、できることや能力を引き出せるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊間根地区という地域の特性を生かしながら、できるだけ本人の希望に添う支援ができるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院時に日々の様子を伝えるなど主治医との関係作りに努めている	利用者の今までの主治医がかかりつけ医となっている。通院は家族介助が原則であるが、個別の事情によってはホームで通院介助している。かかりつけ医には、利用者の普段の様子や変化を記録して報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域包括支援センターの看護職や地域の看護師に相談助言を求めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は特に医療相談室を通して連携をとり様子を聞くなど関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明し了解を得ているが、終末期については現在は話し合い等なされていない	ADLの低下、医療が必要になった場合は、次の段階に向けて一緒に考えることで本人家族の了承を得ている。終末期については、死に向き合う時グルーピング(調和)の問題や夜間一人勤務体制の問題もあり、対応困難としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で救急救命講習を受講しているが、定期的訓練は現状では行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応は毎月1回訓練を行っているが、地域を巻き込んだ訓練は実施していない	毎月職員会議を始める前にシミュレーションを作ったうえで、夜間の一人勤務体制を想定した避難訓練を実施している。ホーム開設して間もないこともあり、消防署の協力を得ての避難訓練は未実施である。	毎月、安全に利用者を避難誘導できるようシミュレーション訓練をしているが、消防署の立会いや地域の協力体制の構築に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定せず一回はご本人の思いや行動を受け止めてから声掛け対応するよう努めている。	会話や声がけでは「だめ」と言う否定語は使わないよう細心の注意を払い、トイレ誘導などでは「ちょっと行きましょう」と声がけし、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ制限しない環境をつくり、自己決定の場を創設するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のラジオ体操後に今日の予定をお話し、ご本人の希望にそった日課を選択していただけよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は毎日髭剃りを自分で行き、希望する女性には化粧品を勧めるなどの支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と買い物へ行き、好みの食材を選び、一緒に下ごしらえを行う環境作りを行うとともに、片付けは全員で行う習慣作りに努めている。	食材を買いに利用者と一緒に出掛けているほか、調理の野菜を刻んだり、配膳や茶碗洗いなどに参加できるように雰囲気をつくり、職員も一緒にテーブルを囲み楽しく食べられるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を一人一人記載し、把握できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは実施していません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方は定期的に声掛けし、トイレでの排泄を促せるよう努めている。	排尿・排便の回数と水分補給量のチェック表を作成し、個別に時間を見て「お腹の張り具合はどうですか」などと声がけ誘導して、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす習慣は日々の生活の中に取り組みしており、昼食時は自家製ヨーグルトを摂取するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表はありますが、ご希望時には入浴できるよう努めている。また、希望者は近くの鉱泉へでかけ入浴している。	一日おきの入浴が基本であるが、希望する時には入浴が出来るよう配慮している。入浴しない利用者は、足浴と清拭を行っている。入浴を嫌がる利用者には、話題をそらしてから再度入浴を促す等の工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に午前中は体を動かす支援を行い、午後は体を休めながらできる作業を取り入れるなどして安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の量・種類を一人一人記載した一覧表を作り確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割を創設するよう努めると共に社会的交流の場を作るような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を聞きながら外出できるよう努めている。また、行きたい所には家族の協力を得ながらでかけられるよう努めている。	ホームの周囲に景色の良い散歩コースがあり、日常的に散歩している。ネームプレートを下げて一人で散歩している利用者もいる。土日には近くの「おでんせ市」(産直)に出かけたり、ドライブに出掛けたりしており、家族や地域の協力を得ながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じお金を所持し自由に買える人と必要時にお渡ししている人など、使える環境作りに努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話をかけたたり、手紙を出したりすることは行っていません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から入ってくる自然の光を取り入れるなど明るい環境に努めているとともに、季節の花を飾るなど居心地のよい環境作りに努めている。	廊下と食堂兼ホールには採光を配慮し天窓を設けテレビとソファを配置、壁には行事の写真、鉢花などを飾り季節を感じながら自由に団欒できるように工夫している。出来るだけ家庭に近い環境づくりに配慮し落ち着いて暮せるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの座る位置は決まっていますが、自由に座れ、また、ソファにも自由に座れる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自由にレイアウトし、衣装ケースや仏壇などスペースが許される限り持ち込んで居心地がよくなるよう努めている。	居室は明るい南側に配置しており、利用者は箆笥や仏壇、テレビ、こたつ、写真等思い出の品々を持ち込んでいる。職員と一緒に自宅との環境に配慮しながら配置や飾り付けを工夫し、楽しく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく手すりをつけ、一人でできる設備とし、居室とトイレドアの色を変えるなど分かりやすく工夫している。		